

日本気象学会東北支部気象講演会

# 平成27年9月 関東・東北豪雨

入場無料

定員150名  
事前申込不要

記録的な大雨となった「平成27年9月関東・東北豪雨」により、東北地方では宮城県を中心に多くの被害がありました。講演会では、豪雨の被害状況や観測結果、気象台のとした対応、豪雨がもたらされたメカニズムについて紹介します。

開催日

2016年 2月20日(土)

13:30~15:30 (13:00開場)

場所

東京エレクトロンホール宮城  
601大会議室(6階)

〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町3丁目3-7

プログラム

司会:大江 和美 (日本気象予報士会東北支部 気象予報士)

1. 東北地方で観測された豪雨のようす  
廣川 康隆 (仙台管区気象台気象防災部予報課 技術専門官)
2. 仙台管区気象台のとした対応  
渡辺 真二 (仙台管区気象台気象防災部予報課 課長)
3. 宮城でどうしてたくさん雨が降ったのか?  
岩崎 俊樹 (東北大学大学院理学研究科 教授)
4. 宮城県の河川被害およびその実態  
小森 大輔 (東北大学大学院環境科学研究科 准教授)

主催:日本気象学会東北支部  
共催:仙台管区気象台  
後援:宮城県、仙台市

問合せ先:日本気象学会東北支部事務局  
仙台管区気象台気象防災部  
防災調査課内 斎藤まで

TEL:022-297-8160

FAX:022-297-5615

MAIL:tohoku-admin@tohoku.metsoc.jp



平成27年9月9日から11日にかけて、関東地方および東北地方では豪雨が発生し、気象庁により「平成27年9月関東・東北豪雨」と命名されました。この豪雨により、東北地方では宮城県を中心に堤防の決壊や浸水、土砂災害など多くの被害に見舞われ、2名の方がお亡くなりになっています。11日3時20分には、東北地方として初めて、宮城県の各市町村に大雨特別警報が発表されました。講演会では、平成27年9月関東・東北豪雨の被害状況や観測結果、気象台のとした対応、豪雨をもたらされたメカニズムについて紹介します。

## 1 東北地方で観測された豪雨のようす

・ 廣川 康隆 (仙台管区気象台気象防災部予報課 技術専門官)

2015年9月10日から11日にかけて、宮城県や福島県を中心に、1時間に60mm以上、24時間で200mmを超えるような記録的な豪雨となりました。この豪雨をもたらした降水システムの特徴について、気象レーダーや気象衛星等の観測結果を用いて解説します。



## 2 仙台管区気象台のとした対応

・ 渡辺 真二 (仙台管区気象台気象防災部予報課 課長)

記録的な豪雨により、2015年9月11日3時20分に、仙台管区気象台は東北地方として初めて、宮城県の各市町村に大雨特別警報を発表しました。豪雨発生前から発生後まで、仙台管区気象台がどのような情報を発表し、防災に資する対応をとったのか説明します。



## 3 宮城でどうしてもたくさん雨が降ったのか?

・ 岩崎 俊樹 (東北大学大学院理学研究科 教授)

2015年9月10、11日に発生した関東・東北豪雨では、  
(1) 台風17、18号により、ベルトコンベアーのような北向きの強力な水蒸気輸送ルートが形成され、  
(2) その走向に沿い、湿潤対流不安定とシア不安定(下層と中層の風速差による不安定)により帯状の降水帯が形成されて、多量の降水が発生しました。最後に今後の課題をまとめます。



## 4 宮城県の河川被害およびその実態

・ 小森 大輔 (東北大学大学院環境科学研究科 准教授)

東北地方では、太平洋側を中心に広い範囲で非常に激しい雨が降り、宮城県では10日夜から11日の朝にかけて記録的な大雨となりました。流域平均2日雨量は、鳴瀬川では観測史上第1位、吉田川では観測史上第2位、河川水位は鳴瀬川・吉田川の水位観測所15観測所のうち、12観測所で観測史上第1位を記録し、鳴瀬川水系渋井川の堤防決壊や、豪雨に伴う土砂災害も発生し、県内に大きな被害をもたらしました。

本発表では、土木学会東北支部東北水害調査団、社団法人地盤工学会東北支部および東北大学災害科学国際研究所緊急災害調査団の調査に基づき、今回の水害の実態に関して報告します。

